

中学校国語科学習指導案

1 単元名

聞き上手になろう～話を引き出す質問をする～

2 単元の目標

(1) 音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。

〔知識及び技能〕 (1) ア

(2) 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて自分の考えをまとめることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1) エ

(3) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 ((1) ア)	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて自分の考えをまとめている。(A (1) エ)	進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、対話の中で相手の話を引き出すために質問の仕方を工夫して聞く、という言語活動を行う。これは「中学校学習指導要領（平成29年告示）国語編」第一学年、〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと言語活動例ア「紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動」を踏まえ、質問する活動に重点を置いたものである。

「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」では、〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことのうち、「聞き手」という言葉とともに特に話すことについて言語活動が示されている。以下に指導要領の言語活動例と、教科書教材の系統を載せた。

	教科書教材の系統性 「聞き上手になろう」	「指導要領」における言語活動例
一年	質問で話を引き出す (質問)	聞き手が話の内容を理解したり自分の考えをまとめたりするために質問することや、意見を述べること
二年	質問で思いや考えを引き出す (インタビュー)	聞き手がわからない点や疑問に思った点について質問したり、話し手の表現の工夫について助言などをしたりする

三年	質問で相手の思いに迫る (対談)	提案や主張などを聞いて、聞き手が疑問に思った点を質問したり、話し手の表現の工夫について評価したりする
----	---------------------	----------------------------------------------------

教材として、光村図書『国語1』P.116に掲載されている「聞き上手になろう 質問で話を引き出す」を使用する。相槌や繰り返し、引用など、聞き方の工夫が簡潔に示されている。質問の種類として「絞る質問（クローズド・クエスチョン）」と「広げる質問（オープン・クエスチョン）」があることを示し、具体的な例が挙げられていることで、どのように質問を工夫すればよいか生徒が実際に使いながら捉えやすい形式になっている。なお、本学級生徒は第一学年時には旧学習指導要領に即した教科書を使用しており、本教材は使用していない。新たに採択された教科書の系統性を生かした今後の指導のためにも、本教材を使用する学習は効果的と考える。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、対話の中で相手の話を引き出すために質問の仕方を工夫して聞く、という言語活動を通して、〔思考力、判断力、表現力等〕のA(1)エ「必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる」力を身に付けさせたい。

人と人との良いつながりを作るためにはコミュニケーションを促進することが重要である。話し手が安心して表現できる状況を作るためには、相手の話に関心を持ち、話している内容や気持ちを受け止められる「聞き手」の育成が必要だと考える。

「聞き手」の育成にむけて、学習指導要領では、第一学年は「必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え」、第二学年は「論の展開などに注意して聞き」、第三学年は「話の展開を予想しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価」することが挙げられている。聞き手は、話の内容を理解し、それを話し手の表現へ生かしていくよう求められていると言えよう。対話に参加しているお互いが、それぞれの伝えたいことを理解し合うことがコミュニケーションの基礎である。そのため、聞き手自身も対話を主導する場面となる質問の方法を学ぶことは、対話による互いの理解を深める上で重要である。第一学年の学習指導要領解説には、「話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である」とある。本単元では、話し手の話を工夫して引き出し、対話を充実させる力を身に付けさせたい。

(3) (1)の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

・好きな食べ物についてのスピーチ（1学年時）

観点ごとに言葉を集め、自分が好きな食べ物を級友に紹介する言語活動を行った。様々に言葉を工夫しようとする姿が見られたが、聞き手の反応を意識して話せなかったことに課題が残った。本単元を通して、工夫して質問する力を身に付けさせ、聞き手として主体的に対話に加わることで話を広げることができると実感させたい。

5 指導と評価の計画（3時間）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○「聞き上手」になるために必要なことはなにか捉える。	[思考・判断・表現] ①	ワークシート①
2	○3～4人の班ごとに役割を決めて対話を行い、ギガタブで記録する。 ○質問するとき困ったこと・質問されて困ったことなど、対話の中で気付いたことをワークシートにまとめる。	[主体的に学習に取り組む態度] [知識・技能]	対話の録画 観察 ワークシート②
3	○ギガタブを使って自分たちの対話を分析し、改善策を話し合う。 ○班ごとの話し合いを学級で共有し、同じテーマでもう一度対話を行う。 ○単元全体を振り返る。	[思考・判断・表現] ②	観察 対話の録画 ワークシート③

※評価の枠

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
Bと判断する状況の例	声の大きさや強弱、スピードなどに気を付けて対話を行っているか。	①絞る質問と広げる質問の特徴を理解し、教科書の例を参考にしながらワークシートに記入できているか。	②どうすれば話を引き出せるかについて、自分の考えをまとめているか。	役割を分担しながら、対話の中で積極的に質問しようとしているか。
評価の材料	観察	ワークシート	観察 ワークシート	ギガタブの記録 観察

【単元指導計画】

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習の見通しをもち、「聞き上手」になるために必要なことを考えよう。 </div> ○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○「林さんのスピーチ」を聞き、聞き上手になるために必要なことを考え、ワークシートに記入する。	・動画を見せながら、自分だったらどのような聞き方をするか考えさせる。その上で、「相づちを打つ」「聞いたことを繰り返す」「他の言葉で言い換えて確かめる」など教科書のポイントを確認させる。	[思考・判断・表現] 絞る質問と広げる質問の特徴を理解し、ワークシートに記入できているか確認する。 (ワークシート)

	<p>○相手の話を引き出すという目的を踏まえて、質問の内容を考える練習をする。</p>	<p>・絞る質問と広げる質問それぞれの特徴を確認させる。</p>	
2	<p style="text-align: center;">テーマについて、話を引き出しながら対話しよう。</p> <p>○3つのテーマについて、話し手として話す内容を簡単に考える。 1 今夢中になっていること 2 私のプチ自慢 3 今年度内で頑張りたいこと</p> <p>○班ごとに役割を決めて対話を行い、ギガタブで記録する。</p> <p>○対話の中で気づいたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>・聞き手の質問によって話が広がる余地が残るように、ノート2～3行分程度の短い内容で考えさせる。</p> <p>・3～4人班で、話し手、聞き手、記録者をそれぞれ全員が行えるようにする。ギガタブでの記録は次時の分析で使用することを伝える。</p> <p>・「相手の話を引き出すために工夫して質問する」ということを意識させ、前時に確認した絞る質問と広げる質問の特徴を想起させる。</p> <p>・話し手としては「どんな質問をされると話しやすかったか」、聞き手としては「質問するときに困ったことはなにか」、記録者としては「どのような質問があると話が広がると感じたか」をポイントにまとめさせる。</p>	<p>[知識・技能] 声の大きさや強弱、スピードなどに気を付けて対話を行っているか確認する。 (観察、対話の録画)</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 役割を分担しながら、対話の中で積極的に質問しようとしているか確認する。 (観察・対話の録画)</p>
3	<p style="text-align: center;">話を引き出す質問の工夫をまとめ、単元の振り返りをしよう。</p> <p>○録画した自分たちの対話を見て、話し手の話をうまく引き出せている質問と、そうでない質問との違いを話し合う。</p> <p>○同じテーマでもう一度対話を行う。</p> <p>○話し手の話が引き出された部分を全体で共有し、効果的な質問の仕方を考える。</p> <p>○単元を振り返り、話を引き出</p>	<p>・前時に話し手や記録者が記入したワークシートを参照させ、聞き手の質問が話を引き出すものになっているかを客観的に振り返らせる。</p> <p>・効果的な質問の仕方を生かせるように意識させ、改善できた点を記録者に指摘させる。</p> <p>・絞る質問から広げる質問につなげられたところなど、いくつかの班の対話をテレビに写してクラスで見られるようにする。</p>	<p>[思考・判断・表現] 話を引き出すための効果的な質問の仕方の工夫について、自分の考えをまとめているか確認する。 (観察・ワークシート)</p>

	す質問の工夫にはどのようなものがあるかをまとめる。	
--	---------------------------	--

6 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

質問の種類や順番を工夫するなど、話を引き出すための質問の工夫に気付き、自分の考えとしてまとめることができる。 [思考・判断・表現] A (1) エ

(2) 本時の展開

過程	時配	学習内容と活動	指導や支援の手立て
導入	5分	<p>○前時を振り返る。</p> <p>○本時の学習目標と流れを確認する。</p>	<p>・ワークシート②を確認させ、前時の対話で気付いたことを思い出させる。</p>
話を引き出す質問の工夫をまとめ、単元を振り返ろう。			
展開	35分	<p>○班ごとに、録画した自分たちの対話を振り返る。</p> <p>○どうすればもっと話し手の話が引き出せるか、また具体的にどのような質問をすれば良いかを話し合う。</p> <p>○話を引き出す質問になるように意識しながら、同じテーマでもう一度対話をする。</p> <p>○前回より話し手の話が引き出せるようになった班の対話をクラス全体で共有し、効果的な質問の仕方を考える。</p>	<p>・録画した対話は各自のギガタブで見られるようにする。</p> <p>・確認ポイントに沿ってワークシート③の表に○×をつけさせ、客観的に自分たちの対話を見るようにさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><確認ポイント></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質問と答えのやり取りが三回以上できている。 2. 絞る質問が使えている。 3. 広げる質問が使えている 4. 広げる質問に対する答えから、絞る質問につながっている。 5. 絞る質問に対する答えから、広げる質問につながっている。 </div> <p>・話し手や記録者がワークシート②に記入した内容を共有させる。</p> <p>・具体的な質問が出ない班には、教科書やワークシート①で考えた質問を応用するように助言する。</p> <p>・質問に対する答えから、さらに質問が重ねられるように意識させる。</p> <p>・記録者には「前は……だったけれど、今回は……」と改善できた点を指摘させる。</p> <p>・質問の数が増えた班や、絞る質問に対する答えから広げる質問につながられるようになった班の対話をテレビに映してクラスで見られるようにする。</p> <p>・質問の種類や順番を工夫することで話がより引き出されることを確認する。</p>
まとめ	10分	○単元を振り返り、話を引き出す質問の工夫には	・単元全体の目標を再確認する。

	どのようなものがあるかをワークシート③にまとめる。	
--	---------------------------	--

(3) 本時の評価

		評価の材料
Bと判断する状況の例	絞る質問と広げる質問を使い分け、質問の順番を工夫すると話が引き出せることに気付いている。	ワークシート 観察
Aと判断するポイント	質問の種類や順番の以外の話の引き出し方の工夫について、自分の言葉でまとめているか。	